

## 抄 録

## 第47回 信州放射線談話会

日 時：平成21年12月19日（土）

場 所：信州大学医学部附属病院大会議室

当番世話人：渡邊 智文（飯田市立病院放射線科）

## 一般演題

1 Aorticopulmonary Paraganglioma の  
1 例

飯田市立病院放射線科

○渡邊 智文, 岡庭 優子, 武井 一喜

同 呼吸器外科

牧内 明子

同 呼吸器内科

八木ひかる

同 臨床病理科

伊藤 信夫

Paraganglioma（以下PG）は副腎髄質以外のparaganglia から発生する稀な神経内分泌腫瘍である。針生検や外科手術等の刺激で腫瘍からカテコラミンが多量に分泌された場合、高血圧発作を起こすことがあり、確実な術前診断が求められる。症例は58歳女性、近医にて2年前から高血圧症として降圧剤の投与を受けていた。半年前からめまいが出現するようになり当院を受診した。24時間蓄尿中のカテコラミン値は基準値以下であった。胸部単純写真、胸部CT、胸部MR上、APwindow付近の前縦隔に径5 cm大の充実性腫瘍を認めた。131I-MIBGシンチグラフィ上、腫瘍へのRI集積は認めなかった。胸腺腫の術前診断のもと、CT下針生検を行った。手技中に急激な血圧変動や多量の出血は認められなかった。免疫組織化学染色を含めた病理診断はPGであり、臨床症状および諸検査からAorticopulmonary paraganglia（Aortic body）から発生したnon-functional PGと判断した。

2 多彩な所見を呈したアルコール性脳症の  
1 例

信州大学放射線科

○細田 玲, 古川 智子, 平瀬 雄一

川上 聡, 金子 智喜, 上田 和彦

角谷 眞澄

症例は66歳男性。大酒家。深昏睡の状態で見送られた。搬送時のMRIにて脳梁膨大部、大脳皮質の腫大とT2WI, FLAIR高信号, T1WI低信号域が認められた。DWI高信号, ADCは低下していた。画像上はMarchiafava-Bignami病(MBD)が疑われたが、臨床的にはVB1多量投与後、意識障害回復とともに眼球運動障害が顕性化したことから、Wernicke脳症(WE)と診断された。治療後のMRIでは大脳皮質や脳梁膨大部の信号変化が改善、第4脳室、中脳水道周囲、第3脳室周囲の信号上昇の改善がみられ、MBDとWEの所見が混在していたと考えられた。MBDとWEはいずれもアルコール多飲者や栄養障害者に急性発症する病態だが、WEの視床病変などに加え脳梁膨大部病変をきたした例、中心溝、中心前溝に沿った皮質病変を伴った例、MBD病とWEを合併した例が報告されている。今回の症例もMBDとWEの所見が混在し、多彩な所見を呈したと考えられたので報告する。

3 甲状腺シンチグラフィが有用であった卵  
巣甲状腺腫疑いの1例

北信総合病院放射線科

○伊藤 清信

同 産婦人科

大野 珠美, 今井 努

藤田保健衛生大学放射線科

外山 宏

卵巣甲状腺腫は稀な良性腫瘍の一つであるが、しばしば悪性腫瘍との鑑別が困難となる。甲状腺シンチグラフィが診断に有用であった卵巣甲状腺腫疑いの1例を経験したので報告する。

症例は40歳代の女性。CA125 71U/ml（正常値0-35）甲状腺ホルモンの値は正常。MRIでは骨盤内に充実成分を伴う多房性嚢胞性腫瘍が認められた。嚢胞成分の中には、出血や甲状腺コロイドによる蛋白濃度

あるいは粘性の高さを反映した T2強調像での著明な低信号を呈する部分が混在しており、この所見が特徴的とされる。充実成分は富血管性であった。ヨードを含有することから単純 CT で一部高吸収を示した。

I-123甲状腺シンチグラフィは7.4MBq 内服投与で5時間後、24時間後に撮影した。5時間後、24時間後共に腫瘍の充実部分を中心に良好に集積し、診断に有用であった。5時間後の撮影では胃、腸管、膀胱に集積が見られた。

#### 4 低酸素血症を契機に発見された褐色細胞腫の1例

相澤病院放射線科

○塚原 嘉典, 伊藤 敦子

同 PET センター

小口 和浩

同 循環器内科

加藤 太門

症例は20代女性。呼吸困難を主訴に当院へ救急搬送された。来院時は SpO<sub>2</sub>66% と著明な低酸素血症を認めた。胸部 CT では、両上肺や背側優位にびまん性のスリガラス影を認めた。その際、左副腎に25 mm 大の腫瘤を認めた。血圧が低下し、心エコーで心機能低下を認めており、緊急に IABP 挿入の方針となった。心カテテル検査では冠動脈には明らかな狭窄はなく、左室造影では逆たこぼ型の運動を呈していた。その際に、心筋生検施行。来院2日後には IABP 抜去となった。その後、左副腎腫瘤は MRI で中心部に出血を認めており、131I-MIBG シンチで集積を認めた。手術施行され、褐色細胞腫と診断された。心筋生検では好中球主体の炎症細胞浸潤を認めており、心筋炎と考えられた。以上から、褐色細胞腫クリーゼに伴うカテコラミン心筋症や非心原性肺水腫と考えられた。若干の文献的考察を加え、報告する。

#### 5 骨盤骨折の TAE

～当院10症例の検討～

諏訪赤十字病院放射線科

○山下公仁彦, 藤田 颯, 五味光太郎

骨盤骨折は交通事故や転落などの高エネルギー事故により生じ、多臓器損傷および出血性ショックを併発することが多い重篤な外傷である。出血性ショックに対する初期治療としては緊急的 TAE も選択され、当院では2007年～2009年で10例に実施し、5例死亡5例

生存という転帰であった。

内訳は60歳以下2名、70歳代4名、80歳代2名、90歳代2名で、9例では他部位損傷も合併していた。全例に初診時造影 CT 検査が施行されており、造影剤の血管外漏出を認めて TAE 適応と判定される状況であった。

緊急血管造影検査においては、CT 所見をもとに PAG および対側腸骨動脈造影を省略する傾向がみられ、内腸骨動脈 TAE も8例は片側、2例が両側に施行されていた。

外傷初期診療ガイドラインでは本法を動脈性出血に対する低侵襲かつ確実な治療と位置づけているが、限界やリスクを考慮して実施されるべきと思われた。

#### 6 喉頭原発腺様嚢胞癌の1例

飯田市立病院放射線科

○深澤 歩, 渡邊 智文, 岡庭 優子

武井 一喜

同 耳鼻咽喉科

塚本 耕二

同 臨床病理科

伊藤 信夫

腺様嚢胞癌は唾液腺より発生することが多いが、稀に肺、乳腺などにも発生することが知られている。今回、稀とされる喉頭原発の1例について検討を行った。

【症例】51歳女性、既往歴は特記事項なし。2008年12月より嗄声が出現し、徐々に増悪した。2009年5月に当院初診となり、右声門下部に腫瘍性病変を認め生検にて腺様嚢胞癌の診断を得た。声門下部癌 T2N0として喉頭垂直切除術施行され、術後照射開始したが、その後術創の離開があり、再手術が行われた。

【考察】喉頭の腺様嚢胞癌は稀な疾患であり、これまでに120例の報告がある。粘膜下の小唾液腺を発生母地とし、声門下部が好初部位とされる。病的には神経周囲浸潤が特徴的であり、術後照射の際にも注意が必要である。治療は切除および放射線治療が適切と考えられる。血行性の肺転移も稀でなく長期間にわたる経過観察が必要とされる。

## 7 頭頸部食道同時重複癌に対して化学放射線療法を施行した6例

長野赤十字病院放射線科

○高橋 加奈, 岡崎 洋一, 杉山由紀子  
村松樹里亜, 天野 雅子, 丸山 篤敬  
輪湖 正

【目的】頭頸部食道同時重複癌に対する同時化学放射線療法の治療効果および有害事象を検討する。

【対象と方法】2001年4月から2009年11月までに頭頸部癌と食道癌の両者に根治的放射線療法を施行した6例を対象とした。

【結果】全例男性, 頭頸部癌は下咽頭4例・中咽頭1例・喉頭1例, 病期は頭頸部癌 stage I・II・IIIがそれぞれ1例, IVが3例, 食道癌 stage I 4例・II 2例であった。

治療完遂率は100%, 奏功率はCR 3例・PR 3例, 2年生存率は66.7%であった。再発は4部位に認められた。PR症例および再発症例に対しては全症例に救済治療が行われた。急性期有害事象はgrade3の白血球減少・摂食障害がそれぞれ3例, grade3以上の晩期有害事象は摂食障害1例のみであった。

【結果】有害事象は許容範囲内と考えられ, 本治療が頭頸部食道同時重複癌の治療法の選択肢となりうる事が示唆された。

## ミニレクチャー

「信州大学放射線科における血管造影, IVRの現状」

信州大学医学部附属病院放射線部

黒住 昌弘

信州大学放射線科における血管造影件数は年約400件, うちvascular interventionが約250件であり, 肝動脈塞栓術が約180件とその中心を占める。non-vascular interventionは年約90件が施行されている。依頼科の方針によってinterventionの種類も変遷しており, 血管奇形の経皮的硬化療法や椎体の圧迫骨折に対する経皮的椎体形成術といった新しいinterventionが導入, 普及しつつある。信州大学の特徴として, IVR-CTを用いた高精度なinterventionに努めていることが挙げられる。3断面CT透視や1mm厚動注CTは, 精度の向上や繊細な手技を患者へ提供するために, 計り知れない情報をもたらす。現在, 信州大学は長野県で唯一のIVR学会修練認定施設として, IVR学会専門医5名が中心となって後進の指導普及に努めている。